

[I486S]  
暗号プロトコル理論

藤崎 英一郎

北陸先端科学技術大学院大学

2020年7月21日

## 1 Generalized Linear Secret-Sharing

# General Adversary Structures

- Adversary Structure  $\mathcal{A}$ : A family of subsets of the set of all players  $P = \{P_1, \dots, P_n\}$  that is anti-monotone, i.e., if  $A \in \mathcal{A}$ , then  $B \in \mathcal{A}$  for any subset  $B$  of  $A$ , i.e.,  $B \subseteq A$ .
  - An adversary structure is said to be  $Q_2$  if for all  $A_1, A_2 \in Q_2$ , it holds that  $A_1 \cup A_2 \not\subseteq P$ .
  - An adversary structure is said to be  $Q_3$  if for all  $A_1, A_2, A_3 \in Q_3$ , it holds that  $A_1 \cup A_2 \cup A_3 \not\subseteq P$ .
- Access structure  $\Gamma$ : A family of subsets of the set of all players  $P$  that is monotone, i.e., if  $A \in \Gamma$ , then  $B \in \Gamma$  for any superset  $B$  of  $A$ , i.e.,  $A \subseteq B$ .

$Q_2$  and  $Q_3$  are natural generalizations of the threshold model for  $t < n/2$  and  $t < n/3$ .

# Linear Secret Sharing

Linear Secret Sharing (LSS) のより一般的構成法 [CDN15].

- 行列  $M \in K^{m \times (t+1)}$ .  $M$  の  $i$  番目の行ベクトルを  $\mathbf{m}_i$  と書く。
- ラベル関数  $\phi: \{1, \dots, m\} \rightarrow \{1, \dots, n\}$ .
- 列ベクトル  $\mathbf{r}_s := (s, r_1, \dots, r_t)^T$ .
- 有資格集合 (qualified set)  $Q \subseteq P$ , i.e.,  $s$  を復元できる集合。

Dealer は、秘密  $s \in K$  を秘密分散するために、乱数  $r_1, \dots, r_t \leftarrow K$  を選び、 $(s_1, \dots, s_m)^T := M\mathbf{r}_s$  を計算。  $s_i (= \mathbf{m}_i \mathbf{r}_s)$  を  $P_{\phi(i)}$  に配る。

Reconstruction ができるために、次の条件がいる。

- $M_Q$  で、  $\phi(i) \in Q$  となる行ベクトル  $\mathbf{m}_i$  から構成された行列を表す。
- 全ての有資格集合  $Q \in \Gamma$  に対して、  $\mathbf{u}_Q^T M_Q = \sum_{\phi(i) \in Q} u_i \mathbf{m}_i = (1, 0, \dots, 0)$  となる reconstruction vector  $\mathbf{u}_Q$  が存在する。
- $\mathbf{u}_Q^T M_Q \mathbf{r}_s = s$  より、  $M_Q \mathbf{r}_s$  と reconstruction vector  $\mathbf{u}_Q$  から秘密が復元できる。

# 有資格集合と無資格集合

$P$  の部分集合  $A$  に対して、 $M_{A\mathbf{r}_s}$  の分布が、 $s$  の分布と独立 (i.e.,  $H(s) = H(s|M_{A\mathbf{r}_s})$ ) の場合、 $A$  を無資格集合 (unqualified set) という。次の定理から、 $P$  の部分集合は、有資格か、無資格のどちらかに別れる。

## Theorem

$\mathbf{e}_Q := (1, 0, \dots, 0)$ ,  $\text{Im}(M_Q) := \{\mathbf{x}^T M_Q \mid \mathbf{x} \in K^{t+1}\}$  とする。

- $Q$  is qualified  $\iff \mathbf{e}_Q \in \text{Im}(M_Q)$ .
- $Q$  is unqualified  $\iff \mathbf{e}_Q \notin \text{Im}(M_Q)$ .

- $Q$  が有資格なら、 $\hat{Q}$  ( $Q \subset \hat{Q}$ ) も有資格であり、 $A$  が無資格なら、 $\hat{A}$  ( $A \subset \hat{A}$ ) も無資格である。
- 全集合  $P$  が有資格集合であれば、無資格集合の集合を adversary structure  $\mathcal{A}$ , それ以外の集合の集合を access structure  $\Gamma$  (有資格集合の集合) と分けることができる
- 一般の SS では、有資格でも無資格でもない集合が存在する。そのような SS を Ramp 型 SS という。

# 定理 1 の証明の肝

$\text{Ker}_r(M_Q) := \{\mathbf{w} \mid M_Q \mathbf{w} = 0\}$  と  $M_Q$  の right-kernel を定義すると、  
 $\text{Im}(M_Q) (= \{\mathbf{x}^T M_Q \mid \mathbf{x} \in K^{t+1}\}) = \text{Ker}_r(M_Q)^\perp$  が成り立つ。

$$\mathbf{e} \in \text{Im}(M_Q) \iff \forall \mathbf{w} \in \text{Ker}_r(M_Q), \mathbf{e}\mathbf{w} = 0.$$

が成り立つ。よって、

$$\mathbf{e} \notin \text{Im}(M_Q) \iff \exists \mathbf{w} \in \text{Ker}_r(M_Q), \mathbf{e}\mathbf{w} \neq 0$$

$\mathbf{e} \in \text{Im}(M_Q)$  であれば、ある  $\mathbf{u}^T M_Q = \mathbf{e}$  なる  $\mathbf{u}$  が存在して、  
 $\mathbf{u}^T (M_Q \mathbf{r}_s) = \mathbf{u}^T M_Q \mathbf{r}_s = \mathbf{e} \mathbf{r}_s = s$ . よって、 $Q$  は有資格。

$\mathbf{e} \notin \text{Im}(M_A)$  であれば、ある  $\mathbf{w} \in \text{Ker}_r(M_A)$  が存在して、 $\mathbf{e}\mathbf{w} \neq 0$  なので、  
任意の  $s'$  に対して、 $\mathbf{r}_{s'} := \mathbf{r}_s + \frac{(s'-s)}{(\mathbf{e}\cdot\mathbf{w})} \mathbf{w}$  とおくと、

$$M_A \mathbf{r}_s = M_A \mathbf{r}_{s'}$$

よって、 $A$  のシェア  $M_A \mathbf{r}_s$  と秘密  $s$  は独立。よって、 $A$  は無資格。

$[a; \mathbf{r}_a] = M\mathbf{r}_a$ ,  $[b; \mathbf{r}_b] = M\mathbf{r}_b$  から、 $\lambda, \eta \in K$  に対して、

$$\lambda[a; \mathbf{r}_a] + \eta[b; \mathbf{r}_b] = M(\lambda\mathbf{r}_a + \eta\mathbf{r}_b) = [\lambda a + \eta b; \mathbf{r}_{\lambda a + \eta b}]$$

# 掛け算へ (1)

次のように演算を定義する。

$$[a; \mathbf{r}_a] \odot [b; \mathbf{r}_b] := (([a; \mathbf{r}_a])_{P_1} \otimes ([b; \mathbf{r}_b])_{P_1}, \dots, ([a; \mathbf{r}_a])_{P_n} \otimes ([b; \mathbf{r}_b])_{P_n})$$

ここで、 $([a; \mathbf{r}_a])_{P_i} = M_{P_i} \mathbf{r}_a$ ,  $M_{P_i}$  をそれぞれ、 $P_i$  に配られるシェア (列ベクトル) と、それに対応する行列とする。

$\otimes$  は、テンソル積で、列ベクトル  $\alpha \in K^\ell$ ,  $\beta \in K^m$  に対して、 $\alpha = (\alpha_1, \dots, \alpha_\ell)^T$ ,  $\beta = (\beta_1, \dots, \beta_m)^T$ , とすると、

$$\alpha \otimes \beta = (\alpha_1 \beta_1, \dots, \alpha_1 \beta_m, \dots, \alpha_\ell \beta_1, \dots, \alpha_\ell \beta_m)^T \in K^{\ell \cdot m}$$

# テンソル積

一般には、行列  $A \in K^{m \times n}$ ,  $B \in K^{\hat{m} \times \hat{n}}$  に対して、次のように定義。

$$A \otimes B = \begin{pmatrix} a_{11}B & \cdots & a_{1n}B \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{n1}B & \cdots & a_{nn}B \end{pmatrix} \in K^{m\hat{m} \times n\hat{n}}.$$

行列  $M_a \in K^{m \times n}$ ,  $M_b \in K^{\hat{m} \times \hat{n}}$ , (列ベクトル)  $\mathbf{r}_a \in K^n$ ,  $\mathbf{r}_b \in K^{\hat{n}}$  とする。  
また  $u, v$  を  $M_a, M_b$  のそれぞれ行ベクトルとすると、

①  $M_a \mathbf{r}_a \otimes M_b \mathbf{r}_b = (M_a \otimes M_b)(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b).$

②  $(u \mathbf{r}_a) \otimes (v \mathbf{r}_b) = (u \otimes v)(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b).$

が成り立つ。(2) から、(1) は導ける。

## 掛け算へ (2)

$$M_{P_i} \mathbf{r}_a \otimes M_{P_i} \mathbf{r}_b = (M_{P_i} \otimes M_{P_i})(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b) = (M_{P_i} \otimes M_{P_i})(\mathbf{r}_{ab})$$

ここで、 $\mathbf{r}_{ab} = (ab, r'_1, \dots) \in K^{(t+1)^2}$ . これより、

$$[a; \mathbf{r}_a]_S \odot [b; \mathbf{r}_b]_S = [ab; \mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b]_{\hat{S}}$$

ここで、 $S$  はもとの秘密分散で、 $\hat{S}$  は、 $\hat{M} = M \otimes M$  によって新たに定義された秘密分散 (ただし、reconstruction できるかは保証されていない)。

もし、秘密分散  $\hat{S}$  に有資格集合  $Q$  が存在するなら、reconstruction vector  $\mathbf{u}$  が存在して、

$$\mathbf{u}^T([a; \mathbf{r}_a]_S \odot [b; \mathbf{r}_b]_S) = \mathbf{u}^T[ab; \mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b]_{\hat{S}} = ab.$$

## Definition

全集合  $P$  が、掛け算によってできた秘密分散  $\hat{S}$  の有資格集合であるならば、元の秘密分散  $S$  を乗算可 (multiplicative) という。もし、adversary structure  $\mathcal{A}$  に属さない任意の集合  $Q \notin \mathcal{A}$  ( $\leftrightarrow Q \in \Gamma$ ) が有資格集合であるならば、 $S$  を強乗算可 (strongly multiplicative) という。

## Theorem

- $P$  を含まない任意の *adversary structure*  $\mathcal{A}$  に対して、線型秘密分散  $S$  が存在する。
- 任意の  $Q_2$ -*adversary structure*  $\mathcal{A}$  に対して、乗算可能な線型秘密分散  $S$  が存在する。
- 任意の  $Q_3$ -*adversary structure*  $\mathcal{A}$  に対して、強乗算可能な線型秘密分散  $S$  が存在する。

複製秘密分散 (replicated secret sharing) は上記を満たす。

# 掛け算 (まとめ)

秘密分散  $S$  が乗算可 (multiplicative) とする。  $S$  が乗算可であるから、  
 $u^T (M \otimes M)(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b) = ab$  となる全集合  $P$  に対する reconstruction vector  $u \in K^{m^2}$  が存在する。  $c_i$  を、列ベクトル  $\mathbf{c} = (M \otimes M)(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b)$  の  $i$  番目の要素とする。

Input:  $[a; \mathbf{r}_a]_S, [b; \mathbf{r}_b]_S$ .

Output:  $[ab; \mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b]_S$ .

- 各  $P_i$  が  $(M_{P_i} \mathbf{r}_a) \otimes (M_{P_i} \mathbf{r}_b)$  をローカルに計算. 結果、  $(M_{P_i} \otimes M_{P_i})(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b) \in K^{(t+1)^2}$  のシェア (列ベクトル) をローカルに保持. これは、

$$\mathbf{c} = (M \otimes M)(\mathbf{r}_a \otimes \mathbf{r}_b)$$

とした時、  $P_i$  が、  $\{c_j\}_{\phi(j)=i}$  をローカルに保持しているのと同じである。

- 各  $P_i$  が自らの  $c_j$  ( $\phi(j) = i$ ) を全て  $P_1, \dots, P_n$  間で線型秘密分散し、結果  $[c_j; \mathbf{r}_{c_j}]_S$  ( $j = 1, \dots, m^2$ ) という状態になる。
- $\mathbf{u}^T = (u_1, \dots, u_{m^2})$  とすると、

$$\sum_j u_j [c_j; \mathbf{r}_{c_j}]_S = \left[ \sum_j u_j c_j; \sum_j u_j \mathbf{r}_{c_j} \right]_S = \left[ ab; \sum_j u_j \mathbf{r}_{c_j} \right]_S$$

となるので、各  $P_i$  のローカルな計算により、  $\left[ ab; \sum_j u_j \mathbf{r}_{c_j} \right]_S$  という状態が作られる。

- [CDN15] Ronald Cramer, Ivan Damgård, and Jesper Nielsen.  
Secure Multiparty Computation and Secret Sharing.  
Cambridge University Press, 2015.